

ART KISS LETTER



FOR KUMAMOTO ART PEOPLE

Vol.8

2002.2.15

ちびっこ芸術家大集合!

第22回造形展 小学校の部



第22回造形展小学校の部(主催:熊本市図工美術教育研究会)が、去る2月2日から10日まで熊本博物館で開催されました。各小学校ごとに分けられたブースには、図工の時間の作品がにぎやかに展示され、大人顔負けの迫力で、ここから未来の芸術家の卵たちが生まれてくるような、嬉しい予感にあふれた展覧会でした。

熊本市現代美術館でも、子供用アトリエ「キッズ・ファクトリー」を備え、ちびっこ芸術家をどんどん応援していきます。楽しみに待っててね。

将来の夢プロジェクト Vol.3

去る1月26日(土)に、イベント第6弾(vol.3)として、「将来の夢プロジェクト」を上通アーケードで開催しました。これはさまざまなジャンルでご活躍の60才以上の人生の達人に、「将来の夢は?」とお尋ねし、自らの手で、大きなキャンバスに描いていただいたその答えを展示するというもので、その最終回として、俳人の本田博子さんに華やかな力作を制作していただきました。艶やかで力強い筆の勢いによって生み出された「牡丹雪を賦(たてがみ)はしる夢の中」、「山茶花の蕊(しべ)よりほっかりと夢」という二句に、春がひと足早く訪れたようなひとときとなりました。



俳人の本田博子さん

ART DE GYAN

アート・ギャン

ART DE GYAN 本館
熊本市北千代町3-1-3 3階 3F ART DE GYAN
TEL: 092-222-1111

● 熊山ササ子小画展 2021年11月20日(土)～22日(月)
びびりとおちろかき、自由さを増し、深みながら入道もつとすの類がすばらしい。サノールヌヌヌと書いてはいるが、サノールは的確で、赤や緑の色は強度を落とさず、熊山ササ子さんの表現をますます深くさせている。

● 上野野瀬スチレム画展 2021年11月20日(土)～22日(月)
3階に続いて、分館と前室までの階段を同時に開き、前室での展示はスケッチが主で、本年現地で描き消しに消しを入れた表現の活気が心地よい。ペン、筆、ナイフによる線描のタッチは走り跳けるほどだが、的確で読みやすく美しい。(K・T)

● 熊本市立美術館本館
熊本市二の丸2 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

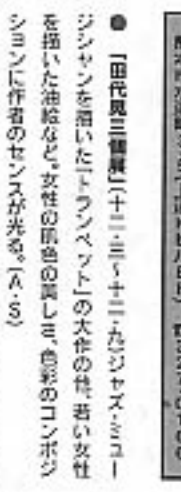
● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111

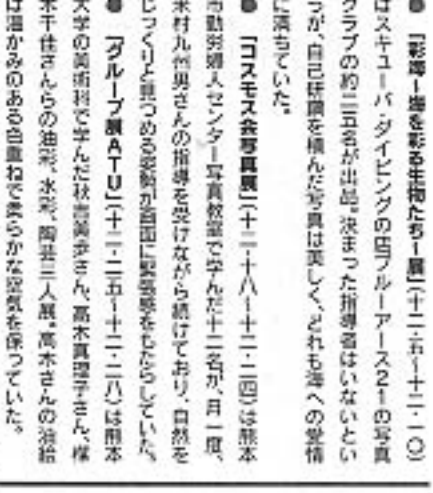
● 熊本市立美術館分館
熊本市千代町2-1-8 092-222-1111



作家の高本明さん



作家の高本明さん



有丸聖代さんと轟木理紀さん



有丸聖代さんと轟木理紀さん

アートスペース大宝堂

〒334-4215

●「ユニセフ展覧会」子どもアートの世界と未来展(二十
二・五・一)〇。日本ユニセフ協会熊本支館による
パネル展。前田や後田の中で生きる子どもたちの姿を写
える写真、地雷の模型などが中心。カード販売や募金も同
時に行われた。

●「Name of our time展」(二十・二・一)〇。代
の若手八人による写真展。身近な風景や人物のポート
レートなど、何気ない日常の中の小さな幸福や果て無
き希望が温かく表される。

●「福島の復興展」(二十・一・一)〇。復興や
ビネテラスの風景などが、独特のモチーフの中で、原
数の色彩の変化をともなう描かれる。改めて油絵とい
うメディアの可能性が試みられる。

●「宇和島女子コロコロ」(二十・一・一)〇。宇和島女子
二五(一)〇。宇和島さんは、通称「ゆんぽん」で知ら
れる。宇和島から「ゆんぽん」をテーマとした絵や
「ゆんぽん」で知られる。宇和島女子「ゆんぽん」を
テーマとした絵や「ゆんぽん」で知られる。宇和島
女子「ゆんぽん」をテーマとした絵や「ゆんぽん」
で知られる。宇和島女子「ゆんぽん」をテーマとし
た絵や「ゆんぽん」で知られる。宇和島女子「ゆん
ぽん」をテーマとした絵や「ゆんぽん」で知られる。

ギャラリーカフェ フロリダ

〒333-0000

●「二枚展」(二十・一・一)〇。二枚は、冷たく光る目を
背景に、双翼の人物が描かれた野口悠志さんの油絵など。
最後主義を思わせる幻想的な作品が印象的。

●「宇和島女子コロコロ」(二十・一・一)〇。宇和島女子
二五(一)〇。宇和島さんは、通称「ゆんぽん」で知ら
れる。宇和島から「ゆんぽん」をテーマとした絵や
「ゆんぽん」で知られる。宇和島女子「ゆんぽん」を
テーマとした絵や「ゆんぽん」で知られる。宇和島
女子「ゆんぽん」をテーマとした絵や「ゆんぽん」
で知られる。宇和島女子「ゆんぽん」をテーマとし
た絵や「ゆんぽん」で知られる。宇和島女子「ゆん
ぽん」をテーマとした絵や「ゆんぽん」で知られる。

フォト&ギャラリーみついし
〒334-6900

●「熊本県近代作展」(二十・一・一)〇。熊道をテ
ーマにした作品の、その道に落ちる影は深い緑色で、向の
影なのか示されず、道に不思議な模様を描き出して
いる。アクリルに染えられた白い線、縞、再び、そのよう
な幻想的な光と影の影が不思議に、静かに浮かんで、ほ
つりと見られる。



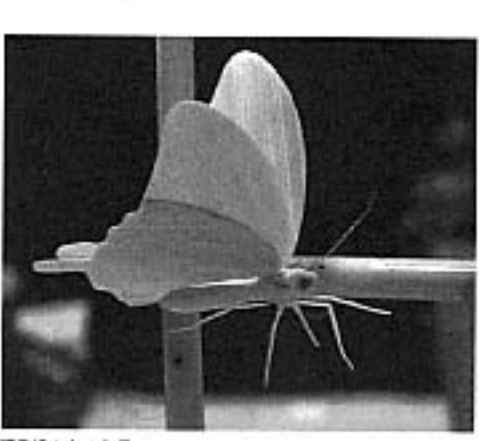
橋本隆貴さんの作品「熊道」

●「牛島島展」(二十・一・一)〇。熊道をテ
ーマにした作品の、その道に落ちる影は深い緑色で、向の
影なのか示されず、道に不思議な模様を描き出して
いる。アクリルに染えられた白い線、縞、再び、そのよう
な幻想的な光と影の影が不思議に、静かに浮かんで、ほ
つりと見られる。

熊本県伝統工芸館

〒332-4430

●「第二回熊道展」(二十・一・一)〇。熊道をテ
ーマにした作品の、その道に落ちる影は深い緑色で、向の
影なのか示されず、道に不思議な模様を描き出して
いる。アクリルに染えられた白い線、縞、再び、そのよう
な幻想的な光と影の影が不思議に、静かに浮かんで、ほ
つりと見られる。



清島達さんの作品

●「山本啓子展」(二十・一・一)〇。熊道をテ
ーマにした作品の、その道に落ちる影は深い緑色で、向の
影なのか示されず、道に不思議な模様を描き出して
いる。アクリルに染えられた白い線、縞、再び、そのよう
な幻想的な光と影の影が不思議に、静かに浮かんで、ほ
つりと見られる。

●「熊道の復興展」(二十・一・一)〇。復興や
ビネテラスの風景などが、独特のモチーフの中で、原
数の色彩の変化をともなう描かれる。改めて油絵とい
うメディアの可能性が試みられる。

●「福島の復興展」(二十・一・一)〇。復興や
ビネテラスの風景などが、独特のモチーフの中で、原
数の色彩の変化をともなう描かれる。改めて油絵とい
うメディアの可能性が試みられる。

●「宇和島女子コロコロ」(二十・一・一)〇。宇和島女子
二五(一)〇。宇和島さんは、通称「ゆんぽん」で知ら
れる。宇和島から「ゆんぽん」をテーマとした絵や
「ゆんぽん」で知られる。宇和島女子「ゆんぽん」を
テーマとした絵や「ゆんぽん」で知られる。宇和島
女子「ゆんぽん」をテーマとした絵や「ゆんぽん」
で知られる。宇和島女子「ゆんぽん」をテーマとし
た絵や「ゆんぽん」で知られる。宇和島女子「ゆん
ぽん」をテーマとした絵や「ゆんぽん」で知られる。

熊本岩田屋六階美術館

〒332-1111

●「上杉松平公展」(二十・一・一)〇。熊道をテ
ーマにした作品の、その道に落ちる影は深い緑色で、向の
影なのか示されず、道に不思議な模様を描き出して
いる。アクリルに染えられた白い線、縞、再び、そのよう
な幻想的な光と影の影が不思議に、静かに浮かんで、ほ
つりと見られる。

●「井筒弘英 石田ひる子 上田和子 女塚三人展」(二十
一・一・一)〇。熊道をテ
ーマにした作品の、その道に落ちる影は深い緑色で、向の
影なのか示されず、道に不思議な模様を描き出して
いる。アクリルに染えられた白い線、縞、再び、そのよう
な幻想的な光と影の影が不思議に、静かに浮かんで、ほ
つりと見られる。

●「熊道の復興展」(二十・一・一)〇。復興や
ビネテラスの風景などが、独特のモチーフの中で、原
数の色彩の変化をともなう描かれる。改めて油絵とい
うメディアの可能性が試みられる。

●「四季の彩」(二十・一・一)〇。熊道をテ
ーマにした作品の、その道に落ちる影は深い緑色で、向の
影なのか示されず、道に不思議な模様を描き出して
いる。アクリルに染えられた白い線、縞、再び、そのよう
な幻想的な光と影の影が不思議に、静かに浮かんで、ほ
つりと見られる。

●「熊道の復興展」(二十・一・一)〇。復興や
ビネテラスの風景などが、独特のモチーフの中で、原
数の色彩の変化をともなう描かれる。改めて油絵とい
うメディアの可能性が試みられる。

●「福島の復興展」(二十・一・一)〇。復興や
ビネテラスの風景などが、独特のモチーフの中で、原
数の色彩の変化をともなう描かれる。改めて油絵とい
うメディアの可能性が試みられる。

●「宇和島女子コロコロ」(二十・一・一)〇。宇和島女子
二五(一)〇。宇和島さんは、通称「ゆんぽん」で知ら
れる。宇和島から「ゆんぽん」をテーマとした絵や
「ゆんぽん」で知られる。宇和島女子「ゆんぽん」を
テーマとした絵や「ゆんぽん」で知られる。宇和島
女子「ゆんぽん」をテーマとした絵や「ゆんぽん」
で知られる。宇和島女子「ゆんぽん」をテーマとし
た絵や「ゆんぽん」で知られる。宇和島女子「ゆん
ぽん」をテーマとした絵や「ゆんぽん」で知られる。

ジエイ

〒332-8732

●「カトル・ラジエ展」(二十・一・一)〇。熊道をテ
ーマにした作品の、その道に落ちる影は深い緑色で、向の
影なのか示されず、道に不思議な模様を描き出して
いる。アクリルに染えられた白い線、縞、再び、そのよう
な幻想的な光と影の影が不思議に、静かに浮かんで、ほ
つりと見られる。

●「熊道の復興展」(二十・一・一)〇。復興や
ビネテラスの風景などが、独特のモチーフの中で、原
数の色彩の変化をともなう描かれる。改めて油絵とい
うメディアの可能性が試みられる。

●「熊道の復興展」(二十・一・一)〇。復興や
ビネテラスの風景などが、独特のモチーフの中で、原
数の色彩の変化をともなう描かれる。改めて油絵とい
うメディアの可能性が試みられる。

●「四季の彩」(二十・一・一)〇。熊道をテ
ーマにした作品の、その道に落ちる影は深い緑色で、向の
影なのか示されず、道に不思議な模様を描き出して
いる。アクリルに染えられた白い線、縞、再び、そのよう
な幻想的な光と影の影が不思議に、静かに浮かんで、ほ
つりと見られる。

●「熊道の復興展」(二十・一・一)〇。復興や
ビネテラスの風景などが、独特のモチーフの中で、原
数の色彩の変化をともなう描かれる。改めて油絵とい
うメディアの可能性が試みられる。

●「福島の復興展」(二十・一・一)〇。復興や
ビネテラスの風景などが、独特のモチーフの中で、原
数の色彩の変化をともなう描かれる。改めて油絵とい
うメディアの可能性が試みられる。

●「宇和島女子コロコロ」(二十・一・一)〇。宇和島女子
二五(一)〇。宇和島さんは、通称「ゆんぽん」で知ら
れる。宇和島から「ゆんぽん」をテーマとした絵や
「ゆんぽん」で知られる。宇和島女子「ゆんぽん」を
テーマとした絵や「ゆんぽん」で知られる。宇和島
女子「ゆんぽん」をテーマとした絵や「ゆんぽん」
で知られる。宇和島女子「ゆんぽん」をテーマとし
た絵や「ゆんぽん」で知られる。宇和島女子「ゆん
ぽん」をテーマとした絵や「ゆんぽん」で知られる。

ギャラリー萌

〒333-7001

●「ギャラリーアート展」(二十・一・一)〇。熊道をテ
ーマにした作品の、その道に落ちる影は深い緑色で、向の
影なのか示されず、道に不思議な模様を描き出して
いる。アクリルに染えられた白い線、縞、再び、そのよう
な幻想的な光と影の影が不思議に、静かに浮かんで、ほ
つりと見られる。

●「熊道の復興展」(二十・一・一)〇。復興や
ビネテラスの風景などが、独特のモチーフの中で、原
数の色彩の変化をともなう描かれる。改めて油絵とい
うメディアの可能性が試みられる。

●「熊道の復興展」(二十・一・一)〇。復興や
ビネテラスの風景などが、独特のモチーフの中で、原
数の色彩の変化をともなう描かれる。改めて油絵とい
うメディアの可能性が試みられる。



作家の真藤智子さん

上内 英隆さん Hidetaka Jounai 市原 孝昭さん Takaaki Ichihara

SUITOTTO*KUMAMOTO

連続インタビュー

NO.7

この連載では、熊本にお住まいで、様々なジャンルで活躍されている方々に、活動による熱い思いを語っていただきます。第7回は究極の左官技能を支える上内英隆さんと市原孝昭さんに楽しいお話を聞きました。

略歴/上内英隆さん(上内工業株式会社社長)

市原孝昭さん(1級左官技術士、大分県萩町出身。上内工業に入社後、1981年、第19回技能五輪全国大会出場で金メダル受賞の快挙、同年アトランタ世界大会4位。1990年、年齢無制限全国左官技能競技大会でも金メダルを受賞。)

「ものづくり」の重要性が叫ばれています。今年は技能五輪の全国大会が熊本で開催されるということですが、上内さんは多くの優れた職人さんを支えてきた経営者として、市原さんは実際に技能五輪などで日本一に輝いた左官技術者としてのお立場から、現在の「ものづくり」についてどうお考えか、お話しいただけますか。

上内:新しい素材がどんどん出てくる中で、左官本来の力を発揮できる仕事が増えてきています。文化としての左官技術という考え方より、コストが優先されてしまうんですね。もちろん、それはそうした現実に対応できる職人を育てることが求められているということでもあります。私自身、「もの」をつくる立場にある者として、プラスチックや合成樹脂でつくられた、一見華やかな建物が林立する世の中ですが、いかなる条件の中でも、長い歴史の中で育まれてきた職人の精神を忘れず、「もの」を完成させるというより、ガウディのサグラダ・ファミリア寺院ではありませんが、終わることなく、その技術を極めようと精進する職人を支えたいと思っています。

市原:私も修行時代を思い出せば、本当に隔世の感があります。何事においても、体で覚えるということが希望です。本物のように見える代用品で済ましてしまう時代ですね。壁も「塗る」から「貼る」ものになってしまいました。土を塗る左官の仕事は、日本の文化だと思うんですよ。ヨーロッパでは彫刻みたいに、付けて飾るという作業ですけど、私たちの仕事は「塗り」なんです。修行を積めば積むほど、腕の感覚は鋭くなって、その仕上げは繊細で、味わい深いものになっていくんです。そういう意味で、若い職人たちがいい経験を積む現場が少なくなっているというのは、本当に残念なことですよ。

——修行時代は辛かったですか。

市原:自分で選んだ道ですからね、早く一人前になってやるという意地がありました。でも先代の上内卓社長には本当にお世話になったんです。左官が何たるかを身を持って叩き込んでくれた人でした。自宅に呼ばれて怒られたことも一度や二度ではありませんでしたが、人を指導する立場になって、初めてその思いが身にしみてわかります。厳父のような先代社長の愛情、先輩のプロとしての厳しさに磨かれ、磨きされ、なにくそって頑張った結果が今日の自分なんですよ。多くの人に支えられてきたんです。

——先代の社長はどんな方だったんですか。職人さんの教育にも力を入られ、技能五輪にも早くから多くの選手を送り出していますが。

上内:義父のことをいうのも何ですが、大物でした。職人の辛さを肌で感じていた人でした。そして、仕事に対する感じにはすさまじいものがありました。昔、県立美術館の壁を塗ったときです。掻き落としという壁の仕上げがあるんですが、モルタルの表面が固まるタイミングが大事なんです。これにちょっと遅れてしまったときがあったんですね。そうしたら「遅う、やり直す」っていうんです。そして、一日分の壁を一からやり直したんです。そういう職人でした。「経営の礎は優れた技術にある」という先代社長の言葉は、そうした職人魂に支えられていたんですね。



市原孝昭さん、上内英隆さん。市原さんが持つのは、先代社長遺物の本「技能に生きる」

——最近の調査で、小学生の特長の夢の第1位が「大工さん」という、すごく嬉しい結果があります。それも腕一本で生きる職人さんの誇りみたいなものを、子供たちが直感的に感じとっているということなのでしょうか。

上内:うれしい結果ですね、毎年若手の人材が入ってきますでしょう。でもおもしろいことに、手先の器用な子が伸びるとは限らないんです。不器用なくらいがじっくり仕事に取り組むせいでしょうか。いい職人になるんです。頑張ればその成果がきちんと出る。そしてその技術さえあれば全国どこでもやっていける。そうした生き方への憧れが、今の子供たちの心のどこかにあるということかもしれないですね。

市原:仕事は誇りがないとできません。技術を身につけて、日々磨くことで自信と誇りがついてきます。18歳で技能五輪で金メダルをいただき、世界大会の結団式で東京に全職種の日本代表が集まり、オリンピック選手みたいな日の丸の付いたブレザーに袖を通したときは、本当に嬉しかったですね。自分の頑張りの結果を形として残せたことがいい思い出です。大きな現場を任せられるようになって、その責任の重さとともに、いろんなところに目が届くようになりました。この道を選んだことに後悔はありませんし、やはり誇りに思っています。

——左官技術者として、いわば日本のトップとっていい、市原さんのこれからの夢は何でしょうか。

市原:人が真似出来ない技術を極めたいですね。修行時代からずっと一人前になることが夢でしたが、今はもっと左官を日本独自の文化として意識した仕事をしたいですね。熊本には京都にも負けない伝統的な左官技術が生きています。泥の仕事、蒸を手でほぐし、白でつき、寝かし、すべて国産の素材を使った左官本来の腕を揮える仕事がしたいです。そして、手で塗った壁の本当のあたたかさや重みを、特にそうした壁に触れることを知らない、今の子供たちに知ってもらいたいです。

——ありがとうございました。

(1月16日、於:上内工業株式会社、聞き手:南真 宏)

編集後記

びぶるす無日会館の3層をメインに開館する、熊本市現代美術館もいよいよその姿を現してきました。現代は建築家の時代だといえます。確かに日本の現代建築は世界的にも高い評価を得ています。しかし、そうした建築の細部をがっちり支えているのは、まさに職人さんたちの堅くべき技能なのです。今回インタビューに伺った上内さんと市原さんからも、その極めた自信と自負を感じることができました。職人さんがどこにかつこよく見えるのはどうしてなのでしょう。現代美術館の建築にも、のべ数にして4万人を超える職人さんたちがその優れた技術を提供してくれています。機械ではなく、その職人さんたちの人ご分の、人間の温もりのこもった匠の技によって、現代美術館が支えられていることを併に話したいと思えます。

(学芸課長 南真 宏)

寄稿者紹介

兼城 昌山 (S.K)
Shozan Kaneshiro

「書」は三千年余の長い歴史がある。その中で生まれたすばらしい古典を消化、吸収して、現在に生きる自分なりの書の美を採求し、創作することが大切だと考えている。

森山 淡草 (T.M)
Tanso Moriyama

曾て、学生書道展の出品作について大先輩に評言を指摘された。学生の自主活動とは言え責任を感じた。最近かなりレベルの高い幾つかの書展で字形の乱なっかしい作品を見た。心したいものである。

田代 晃三 (K.T)
Kozo Tashiro

ゆっくりでも歩き続けるとどこかへ行けるはず、自分も歩き続けてどこかへ行き着こう。

学芸員紹介

本田 代志子 (H.H)

寒い日でも、お話を聞くと暖まる友人の方々のあたたかさを感じます。

坂本 顕子 (S.S)

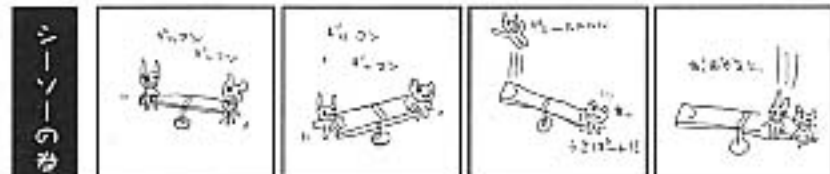
出会いと別れのシーズン。素敵な作品に(男性も!)愛したいものです!

金澤 絹 (K.K)

シルバー文化作品展で少しお手伝いさせていただきました。参加された方々のエネルギーに圧倒されました。

雷澤 治子 (R.T)

最近、高次元長期間の日本映画に注目している。奇想なバラエティ、戦争の記憶の書き、投書の強烈なエネルギー。



イラストレーション:熊本デザイン専門学校 グラフィックデザイン科 福田 七美

発行元/ART KISS LETTER アートキッスレター Vol.8 2002年2月15日発行/無料

編集人/田中 幸人

編集長/南真 宏 担当/雷澤 治子

印刷/熊本県印刷センター協賛組合 デザイン/松永 社デザイン事務所

発行/熊本県美術館設立準備会 〒860-8601 熊本市手取本町1-1

TEL.096-328-2747 FAX.096-359-7892